



平成 18 年 9 月 29 日

各位

会社名 株式会社レイ
代表者の役職氏名 代表取締役社長 分部 日出男
(JASDAQ コード番号 4317)
問合せ先 取締役 川崎 富士朗
連絡先 コーポレートプランニング室
(TEL 03-5410-4057)

平成 19 年 2 月期中間(連結・単独)業績予想との差異及び 通期(連結)業績予想の修正について

平成 19 年 2 月期(平成 18 年 3 月 1 日～平成 19 年 2 月 28 日)の業績予想について、平成 18 年 4 月 14 日付当社「平成 18 年 2 月期 決算短信(連結)」及び同日付け当社「平成 18 年 2 月期 個別財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 平成 19 年 2 月期 連結業績予想の修正等

(1) 中間期(平成 18 年 3 月 1 日～平成 18 年 8 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	4,462	100	51
今回修正(B)	4,568	6	58
増減額(B-A)	106	94	7
増減率	2.3%	94.0%	13.7%

(2) 修正理由

売上高につきましては、大型ショールームの受注があり、連結ベースで予想を上回る見込みであります。しかしながら、販促企画制作部門は売上高こそ堅調だったものの映像演出機器部門を活用した案件は少なく、稼働率が下回りました。また、本年 4 月に映像制作プロダクションである株式会社ティーシー・マックスを子会社化し売上高に貢献しておりますが、編集スタジオ部門へのシナジー効果は未だ十分でなく、稼働率において下半期へ課題を残しています。以上より、45 億 68 百万円と予想比 1 億 6 百万円の増収となる見込みであります。

経常利益につきましては、上記稼働率の低下及び一部コンテンツの評価見直しをおこなった結果、6 百万円と(当初予想比：94 百万円の減少)となる見込みであり

ます。

中間純利益につきましては、当上半期において保有する投資有価証券を売却したことにより、58百万円(当初予想比：7百万円の増加)となる見込であります。

(3) 通期(平成18年3月1日～平成19年2月28日)の業績予想

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	10,269	529	290
今回修正(B)	10,269	400	290
増減額(B-A)		129	
増減率	- %	24.4%	%

(4) 修正理由

売上高につきましては、当初予想した受注環境の見通しが下半期も続くものと思われ、通期の予想に変更は、ありません。経常利益につきましても同様な受注環境が続く見通しを立てており、通期においては、上半期の実績を加味したものに變更し、4億円(当初予想比：1億29百万円の減少)となる見込みです。当期純利益につきましては、上半期の投資有価証券の売却により、経常利益のマイナスを補えるため、当初予想に変更は、ありません。

(5) ご参考：前期の実績(平成17年3月1日～平成18年2月28日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期(17/3～17/8)	4,371	175	104
通 期(17/3～18/2)	9,533	773	416

2.平成19年2月期 単独業績予想の修正等

(1) 中間期(平成18年3月1日～平成18年8月31日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	397	134	123
今回修正(B)	492	146	196
増減額(B-A)	95	12	73
増減率	23.9%	8.9%	59.3%

(2) 修正理由

当社グループは、持株会社である株式会社レイと子会社である8つの事業会社によって構成されています。株式会社レイの収益は、ほぼ100%子会社からの配当と事務代行手数料によっております。したがって、売上高、経常利益につきましては、ほぼ見込みどおりとなっております。中間純利益につきましては、当上半期において保有する投資有価証券を売却したため、1億96百万円(当初予想比:73百万円の増加)となる見込みであります。

(3) 通期の業績予想

通期の業績予想につきましては、平成18年4月14日付当社「平成18年2月期個別財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想に変更はありません。

(4) ご参考：前期の実績(平成17年3月1日～平成18年2月28日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期(17/3～17/8)	327	87	59
通 期(17/3～18/2)	667	173	106

以上